

「あれ？」 「そうだ！」 「やってみよう」 学びがつながる園生活 ～思考力の芽生えを捉えて～

今年度、研究テーマを『「あれ？」 「そうだ！」 「やってみよう」 学びがつながる園生活～思考力の芽生えを捉えて～』とし、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」の一つである「思考力の芽生え」に視点を当てて研究に取り組んだ。事例の中から子どもの「あれ？」と心を動かす姿を捉え、子どもの「あれ？」 「そうだ！」 「やってみよう」を支える環境の構成と教師の援助を明らかにした。

3歳児の事例から分かったこと

3歳児は、入園当初は“わあ！” “面白そう”と心が動いたことに「あれ？」と感じていた。教師はゆったりとした雰囲気をつくり、子どもが「あれ？」と感じた瞬間を逃さず受け止め、気付きに寄り添ったりしたいことを支えたりすることが大切である。教師とのつながりの中で安心感をもち、心が動くようになると、教師や友達のしていることに興味をもって自分から動き出すようになる。そして、したいことを見つけて遊ぶ中で“どうなるのかな” “うまくいかないな”という疑問や迷いに対して「あれ？」と感じるようになる。子どものしたいことを受け止め、3歳児なりに自分でできた喜びや考える楽しさを十分に味わえるような環境の構成と教師の援助が必要である。



4歳児の事例から分かったこと

4歳児は、いろいろなことに興味をもって関わる中で、不思議さや違和感をもったことに「あれ？」と感じ、思い付いたことを何でもやってみようとして試す姿があった。教師がその姿に大げさに反応したり受け止めたりすることで好奇心がかき立てられた。時には疑問を抱きながら予想して試す中で、一つ一つの発見や新しい気付きを楽しんでいた。子どもの抱いた疑問や新しい気付きに共感し、次の気付きにつながるような環境の構成と教師の援助が必要である。また、友達と関わる中で、自分とは異なる友達の思いを感じ取るようになる。一緒に遊んでいる友達の思いや考えに気付いた上で、より良い方法を考えられるような教師の援助が必要である。



5歳児の事例から分かったこと

5歳児は、遊びや生活の中で思うようにいかないことや面白そうだと思ったことに「あれ？」と感じ、これまでの経験から“こうするときとできそう”と推測して解決しようとしていた。また、友達と目的を共有して互いに考えを出し合ったり受け入れ合ったりする中で、自分の考えを広げるとともに、友達と一緒に新たな考えを生み出す楽しさを感じていた。思うようにいかないことがあっても、考え直すことでより良い方法が見つかったと感じる経験を重ねることが、考えることを楽しみ、諦めずに思考を繰り返す子どもを育む。子どもが考える姿を見守り、自分たちで考えて遊びを進めることができるような環境の構成と教師の援助が必要である。



研究のまとめと今後の課題

今年度、思考力の芽生えに視点を当てて事例検討をする中で、子どもの思いや考え、育ちを読み取ってきた。学年によって「あれ？」と感じていることや考える過程に違いはあるものの、どの学年においても育ちを捉えて考える過程を楽しめるように支えていくことが大切だと分かった。また、子どもが主体となって考えられるように、教師の見守る援助、あえて言わない援助が大切であると改めて分かった。

今年度は2学期までの事例をもとに研究を行った。来年度は、今年度分かったことをもとに、3学期の子ども姿、年長児と1年生との交流活動の姿から、学びのつながりを明らかにしたい。

※ 事例の詳細につきましては、令和3年度 公開保育 オンライン研修報告の折に配信する研究報告をご覧ください。